

## 第 11 回 設楽ダム環境検討委員会 議事概要

日 時：令和 5 年 2 月 17 日(金) 13:00～15:00

場 所：桜華会館 桜花の間

出席委員：松尾 直規 委員(委員長)、加藤 晃樹 委員、西條 好迪 委員、田中 正明 委員、  
野平 照雄 委員、前田 喜四雄 委員、森 誠一 委員

### ○議事概要

#### (1) 設楽ダム環境検討委員会 規約について

- ・変更なし。

#### (2) 設楽ダム建設事業について

- ・設楽ダム基本計画の変更に伴う事業工期の延伸及び事業費の増額について報告した。
- ・主な工事の流れ、事業の進捗について報告した。

#### (3) 環境検討委員会の経緯及び経過について

- ・環境検討委員会の経緯・経過について報告した。
- ・事業工期延伸に伴う環境検討委員会等の今後の予定などについて報告した。

#### (4) 環境保全措置等の進捗・実施状況

##### 1) 環境保全措置、配慮事項等の内容

- ・これまでの環境保全措置等の進捗・実施状況について報告した。

##### 2) 環境保全措置等の実施状況

- ・裸地からの濁水発生が伴う工事現場において、工事中の土砂による水の濁りを低減するために沈砂池や濁水処理設備の設置、及び放流水の濁りの監視として濁度の計測や河川巡視等を行っていることを報告した。
- ・濁りが長時間継続するような場合は、濁りを低減するために必要な措置を検討し実施することとの意見をいただいた。
- ・工事現場から流出した土砂によりネコギギが生息する間隙が充填されることでネコギギの生息場が減少する可能性があるため、沈砂池等の設置及びメンテナンスをしっかりと行うこととの意見をいただいた。
- ・定期水質調査では工事による影響は確認されていないことを報告した。
- ・濁りの発生頻度を監視するための連続観測水質調査では、令和 4 年において 7 回の超過日数を確認し、いずれも工事区域内より一時的に濁水が流入した可能性があるものと考えられることを報告した。
- ・降雨時の負荷を確認するための降雨時水質調査の結果から、降雨時の濁質の粒度

分布は工事区域の上下流で大きく異ならなかったことを報告した。

- ・粉じん等の発生を低減するために散水や泥落としマットやタイヤ洗浄機の設置を行っていることを報告した。
- ・騒音の発生を低減するために低騒音型建設機械に加えて超低騒音型建設機械を採用していることを報告した。
- ・アケボノユウレイグモについて、過年度の移植実験を踏まえ生息適地を選定し移植、及び移植後の監視を行ったことを報告した。また令和元年度の移植箇所は本種の定着状況が良好なため、令和4年度で監視終了することについて了解を得た。
- ・キバナハナネコノメ、ヤマトハクチョウゴケ、カビゴケの移植を過年度より計画的に、またヒロハシノブイトゴケの移植を工事の着工時期を考慮して行ったことを報告した。
- ・平成29～令和3年度に移植したアギナシ、エビネ、エビネ属の一種、ヤクシマヒメアリドオシラン、ヤマシャクヤク、キンラン、キバナハナネコノメ、ヤマミゾソバ、オオクボシダ、ムギラン、クマノゴケ、オオミズゴケ、マツムラゴケ、イチョウウキゴケ、カビゴケ、コキジノオゴケ、カトウゴケ、ジョウレンホウオウゴケ、ヤマトハクチョウゴケの各種を対象に、移植後の監視を行ったことを報告した。
- ・また移植後の監視の結果、エビネ、ヤマシャクヤク、オオクボシダ、クマノゴケ、オオミズゴケ、カビゴケ、コキジノオゴケ、カトウゴケ、ジョウレンホウオウゴケの各種における令和元年度以前の移植箇所は、各種の生態に適した環境が移植時と変わらず維持されていることが確認されたことから、生息状況と併せて勘案し令和4年度で監視終了することについて了解を得た。
- ・改変区域近傍に生育が確認されるクマノゴケ及びカビゴケの監視を行ったことを報告した。
- ・保全対象種の域外保全の状況を報告した。
- ・移植後の監視において、蘚苔類等の活着数は一見少ないように見えるが3割程度残れば良好であり、併せて域外保全によるリスク分散にも取り組んでいるため、絶滅してしまうような可能性は低いとの意見をいただいた。
- ・環境保全に関する教育・周知活動として、事業地周辺にて工事を実施する関係機関と工事情報及び環境情報を共有する会議を開催していることを報告した。
- ・廃棄物等の発生の抑制と再利用の促進として、伐採した未利用材をチップ化し一般配布や木質バイオマスとしての活用などを行っていることを報告した。

### 3) 今後の環境保全措置等

- ・水環境、大気環境（粉じん等、騒音・振動）の保全等について、令和5年度に実施する工事においては、従前からの保全措置を継続して実施していくことについて了解を得た。またダム本体建設1期工事においては、工事契約後の施工計画で

必要な環境保全措置を検討することを報告した。

- ・動植物の保全等について、直近の工事に対する対応、計画的な保全措置の実施、既往移植個体の監視の3つの方針に沿って引き続き行っていくことを報告した。

#### (5) 各検討会の報告

- ・各検討会での検討内容について下記の概要などを報告した。

##### (魚類検討会)

- ・設楽ダム建設事業の工期変更によりネコギギの移植が必要となる試験湛水までの期間が延伸したためその期間を有効に活用したネコギギ保全のロードマップに見直したこと
- ・放流実験においてこれまでに複数年の繁殖が複数の河川及び自然淵で確認されたこと
- ・検討した生息適地評価モデル及び整備手法についてネコギギが生息する伊勢湾流域の他河川においても適用でき今後の保全に活かせるよう汎用性のあるものとしてとりまとめていくこととしたこと
- ・保全啓発として地元高校と共同した環境学習会を実施したことや、これまでの知見を活かし地域が生息地の監視や観察を行えるよう、漁協など地元団体と協働してゆく方針とすることとしたこと

##### (猛禽類検討会)

- ・クマタカの令和4年繁殖シーズンにおいて、監視対象の3ペア全てで繁殖が確認されなかったこと
- ・コアエリア内で実施された全工事における環境保全措置等を実施した結果、すべてのペアにおいて忌避・警戒行動は確認されなかったこと
- ・また繁殖成否の要因について分析した結果、ひとつのペアでは雌個体が入れ替わったため新しいペアの繁殖実績の確認ができていないことから要因は不明であったが、他の2つのペアではそれぞれ、抱卵中の雌個体が他個体への誇示行動により複数回巣を離れていたことで抱卵時間が短くなったことや、直近の既知営巣木が枯死により樹冠部の青葉が無くなったことで営巣環境が適さなくなったことにより繁殖に至らなかった可能性が考えられた一方、この分析結果以外にも加齢による繁殖能力の低下、捕食者による被害、卵の保温不足、抱卵期の冷たい長雨の影響などや、あるいはそれらが複合的に影響した結果である可能性などが考えられ特定は困難であること
- ・今後も工事中のモニタリング調査により情報を蓄積し、その知見に基づいた要因を考察することが重要であるものとしたこと

##### (湿地整備検討会)

- ・令和2年度より導水可能な水量及び場所の特性を踏まえたゾーニングに見直した湿地環境の整備を行ってきたこと

- ・またその結果、整備した湿地環境において湿生草本植物群落の割合が増加傾向にあることや保全対象種が継続あるいは断続して確認されていること
- ・移植した重要種の生育状況等が良好であること
- ・地元高校との環境学習会を継続して実施していること
- ・湿地環境の整備や重要種の移植に係る評価方法（案）を整理したこと
- ・湿地環境の整備は令和5年度までに基本メニューを終え、令和7年度から湿地管理への移行が見込めることとなったため、湿地の利活用に係るワークショップや湿地の利活用の試行を行っていくこととしたこと
- ・ネコギギの保全において、豊川のみならず伊勢湾流入河川のネコギギについても保全するために他の地域へ発信していただきたい、また地域との保全活動を継続して実施することによりネコギギの保全のみならず地域振興の一助としていただきたいとの意見をいただいた。
- ・クマタカの繁殖状況等について、今後ダム本体工事が本格化する中、引き続きしっかりモニタリングをしていく必要があるとの意見をいただいた。
- ・湿地環境の整備について、水深や水量、流速のバラエティがあればあるほど多様化するため単一的にならないよう留意すること、また環境学習会など地元との共同の企画は今後も継続し実施していただきたいとの意見をいただいた。
- ・ダム本体工事が本格化することによりこれまでにない問題が発生するような場合は、各検討会へ適宜報告をし助言を得ながら事業を進めていただきたいとの意見をいただいた。

以上